

●防災・減災に関連して何う ●災害発生時の不明者の名前の公表を ●マイナンバーカードの普及と現状は



赤木 武男
議員

赤木 熊本地震における天草の被害状況と半壊・全壊の被災家屋をなぜ、公費解体に認定しなかったのか。また熊本地震後には防災備蓄品の見直しや飲食品の入れ替え、更新等への取り組みや防災士の養成・育成と資格取得への補助制度の創設をお願いしたい。

防災危機管理課長 五和町では本震で震度6弱を観測。罹災証明発行は住家・アパートが49件、会社・店舗が32件の計81件。半壊は非住家1件。備蓄品の食料品等は当初1,000食を8,000食に、マット・毛布類は4,000枚を備蓄。分散備蓄も本庁・各支所等に配備した。消費・賞味期限のあるものは、防災訓練等で活用してもらった。また防災士の育成は重要であり、自主防災組織への補助金の中で支援をしている。現在、78人の防災士がいる。

市民生活部長 公費解体は市町村の判断で実施。本市では「生活環境保全上、特に必要と認められる場合」との要件を基準とした。

赤木 今後も豪雨や台風・地震などの大規模自然災害が発生する可

能性があるが、このような厳しい認定基準を設けるのか。また、災害発生時の氏名公表について、市長の見解を伺う。

市長 国は氏名公表の統一した基準は設けておらず、非常に難しい問題だが、大規模災害時には人命優先の観点から特別な事情がない限り公表すべきと考える。

赤木 マイナンバーカードの交付率は全国平均を下回っている。交付率推進と利活用等(2021年3月から健康保険証として運用)の方策について伺う。

市長 国の計画では、地方公務員については、本年度末までに家族等を含めカード取得の勧奨を行う。また2022年度中にはすべての医療機関で健康保険証としての資格確認を導入することとしている。カード取得が全国的に低迷しており、取得による行政サービスの簡素化・効率化等が向上するよう取り組みたい。

●地域介護予防活動について ●天草市の教育全般について



澤井 一富
議員

澤井 介護給付費は、年々増加の一途をたどっていると思うが、本市の介護予防の仕組みは。

健康福祉部長 給付費の総額は年々増加している。本市は介護予防の取り組みとして、「住民主体による介護予防」を推進している。具体的には「住民運営による通いの場」を推進し、ロコモティブシンドロームの予防としての体操を主体に実施しているほか、様々な取り組みもあり先進的な取り組みとして注目されている。



澤井 福岡市内を中心に自治体に導入されている「ケアトランポリン教室」の導入を検討してどうか。

健康福祉部長 住民主体による身近で気軽に予防活動に取り組む手

法を重視しているので、導入する考えはない。

澤井 携帯スマホの依存使用について、各学校ではどのような指導をされているのか。

教育部長 家庭でのルール作りが第一と考える。学校においても情報モラルに関する授業も行われ、また情報安全出前講座など、子どもや保護者、教職員向けの講座も実施している。

澤井 キャリア教育が今後必要ではないか。

教育部長 すべての小・中学校でキャリア教育年間計画を作成しており、職場体験学習については、市内の全中学校で実施している。また、平成28年度からは「キャリア教育研究推進事業」に取り組み、地場産業や流通についての学習、市場調査、商品開発、宣伝、製作や販売活動等の体験を行っている。これらの学びを通して、情報収集・分析力、判断力、コミュニケーション能力等を有する人材の育成を図るとともに、望ましい職業観や勤労観の育成に努めている。

●デザイン・プロデュースを活用した地域活性化について ●スポーツ拠点施設整備事業の進捗状況について ●音楽フェス開催による地域活性化について



下田 昇一郎
議員

デザイン・プロデュースの活用について

下田 「デザイン経営」「デザイン・プロデュース」といった観点から地域におけるデザイン力を高めることによって、より魅力ある天草を創るためのプラットフォーム構築に取り組みでいただけないか。

経済部長 アマビズ機能を強化しプラットフォームとして活用し、併せて市内の各事業所にデザイン経営を取り入れる企業を増やすことを進めていきたい。

大矢崎緑地公園の整備について

下田 現在計画されている緑地公園の陸上競技場インフィールド及び多目的広場の整備について、また未来に対して借金を残すのではなく財産となるような整備をお願いしたい。

市長 陸上競技場インフィールドについては天然芝と決定し、多目的広場については現段階では人工芝とする方向で整備費や管理費、素材や特性などの検討を進めている。また、管理棟については「地方創生拠点整備交付金」の対象となり得ることや交流人口の増加に向けた活動など、市民や競技団体の目線を大切に内容を整えていきたい。

音楽フェス開催による地域活性化について

下田 本年7月に多くの天草市民の悲願であった大規模野外フェスが地元出身ロックバンドWANIMAの協力で開催された。「また来年も！」と望む声も多い中、今後の支援策として「ふるさと応援寄附金」のメニューに「WANIMA野外フェス支援金」などの創設を！

総合政策部長 新たなメニューの設定については考えていない。交流イベント等については、「市長おまかせ」といった寄附メニュー等を活用していきたい。

下田 今回の事業の成功は、長い時間を費やして取り組んでいただいた実行委員長や本市の若手職員によるプロジェクトチームの努力の賜物。そして「オール天草」で支えていただいた協力団体や協賛企業並びに地元住民の皆さんの力である。何十年も描き続けた夢が叶い多くの若者の笑顔と熱気に溢れ天草を誇りに思える素晴らしい1日が再び訪れるよう協力をお願いしたい。



熊本市立天草高等学校1年生が第3回定例会のようすを傍聴

9月17日に1年5組と6組、18日に1組と3組の生徒の皆さんが本会議(一般質問)を傍聴しました。ここでは、そのうち4人の感想を紹介します。



1年1組
衣川 愛純さん

政治は一つの考え方や意見によって決まるのではなく、様々な課から情報をもらって未来の天草のことを予測するなど、多くの人の支えで成り立っていると感じました。普段はテレビや新聞でしか見ない政治を目の前で見ることができて良い経験になりました。



1年5組
滝崎 麻緒さん

質問では、私が考えもしなかった問題や、私も疑問に思っていた問題もありました。特に私は「市民に優しいまちづくり」の話合いが印象的で、私たち高校生が関わられるアイデアもありました。私はこれからもっと、自分たちの地域の問題に目を向け、今の自分たちに何ができるかを考えて生活します。



1年3組
松本 崇太さん

初めての市議会傍聴で、WANIMA Good job!! Release Partyのことがとても気になっていて、開催までの経緯などが知れてよかったです。市議会を傍聴して、僕たちでは考えられないことをたくさん考え、とても難しい問題と向き合っていてすごいなと思いました。



1年6組
岩下 翔龍さん

今の天草の課題を聞くことができ、よかったです。中でも海洋ごみの話はとても驚きました。日本発の海洋ごみがアメリカ西海岸沖にまで達していると聞き、それだけ日本は世界に影響を与えているのだと思いました。今回の傍聴を通して天草についても一度考え直したいです。

※2組と4組の生徒の皆さんは、令和元年12月定例会を傍聴する予定です。